

経営比較分析表（令和6年度決算）

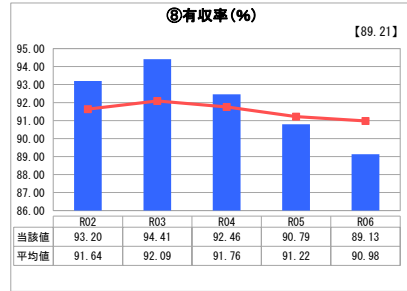
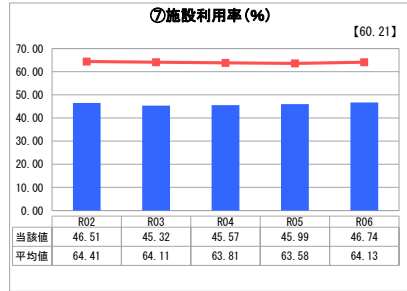
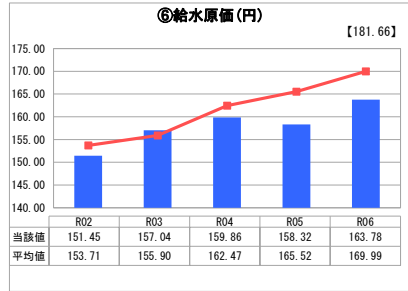
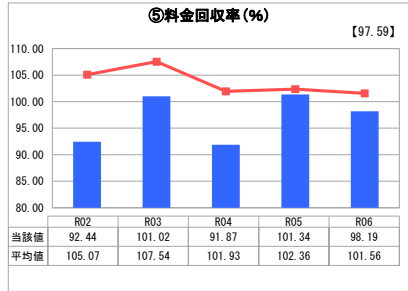
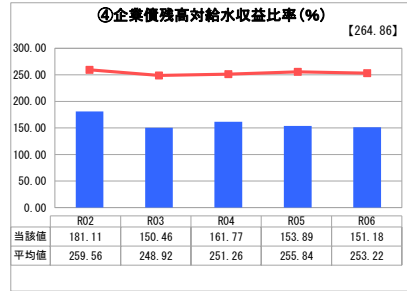
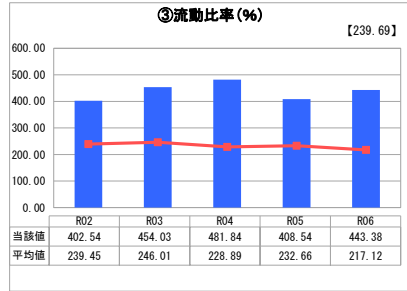
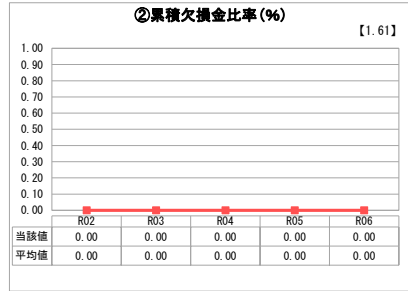
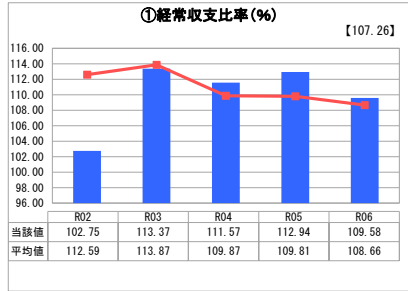
兵庫県 尼崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.76	100.00	2,552	

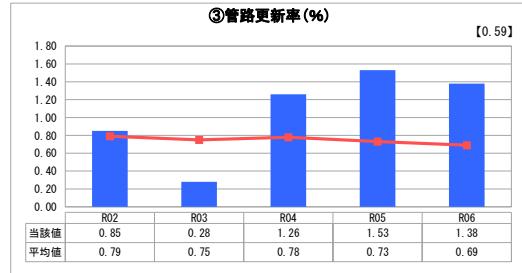
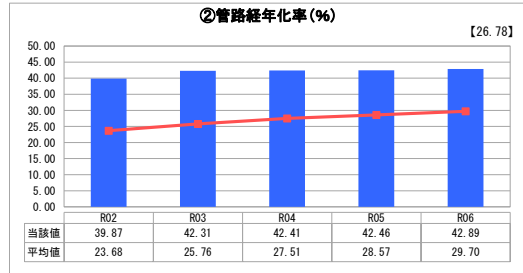
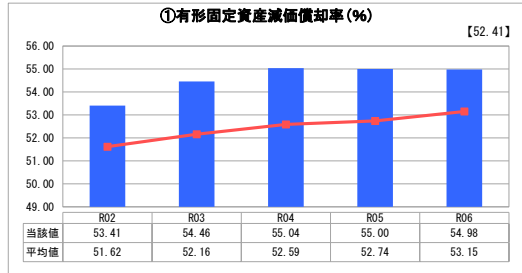
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
457,508	50.70	9,023.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
457,072	50.70	9,015.23

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
平均値よりも高く、指標が100%を上回っており、良好な状況である。
- ②累積欠損金比率
0%を維持しており、欠損金は発生していない。
- ③流動比率
平均値よりも高く、100%を上回っていることから、財務的に安定した状況である。
- ④企業債残高対給水収益比率
平均値よりも低い水準であり、安定した状況である。
- ⑤料金回収率
給水原価の増により、前年度に比べて減少したものの、共通経費（他事業会計負担分）に係る費用を除いた算出では100%を上回っており、給水に係る費用は給水収益で賄えている状況である。
- ⑥給水原価
前年度に比べて増加したものの、平均値と比較すると良好な状況である。
- ⑦施設利用率
平均値より低く、水需要の減少に対して施設能力が過大な状況である。
- ⑧有収率
前年度に比べて低くなったものの、平均値とほぼ同程度の水準を維持している。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率・②管路経年化率
平均値と比べて高い数値となっており、特に管路を中心とした施設が経年化する中で、更新時期を迎える施設が増加していることが要因である。事業費の平準化を図るため、施設の実耐用年数を見極め、計画的かつ効率的な更新に取り組んでいる。
- ③管路更新率
年度による多少の増減はあるものの、平均値よりも比較的高い水準を維持している。配水管の実耐用年数を見極め、40年先を見据えたライフサイクルコストの考え方をうけて更新ペースの平準化に努めており、このペースを維持していくことで、40年先には漏水の可能性が高い老朽管が減少し、高度経済成長期に布設した配水管の更新が完了できる見込みである。

全体総括

比較的健全な経営状況を維持できているが、給水人口の減少等に伴う給水収益の減少が見込まれるほか、物価高騰の影響等により、今後の経営環境はより一層厳しさを増すものと考えられる。
このような状況を踏まえて策定した、「あすまいビジョン2029」（2020～2029年）における事業運営指針に基づき、施設の耐震化・老朽化対策を着実に実施するとともに、経営環境の変化を踏まえ、安定的に事業運営できるよう、経営基盤の強化に取り組む。

経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

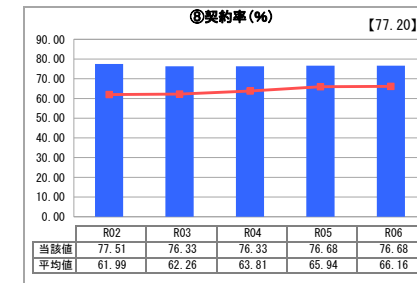
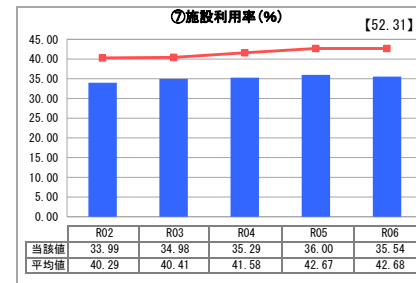
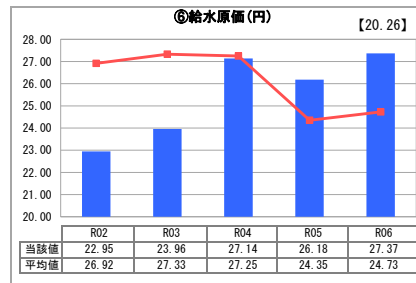
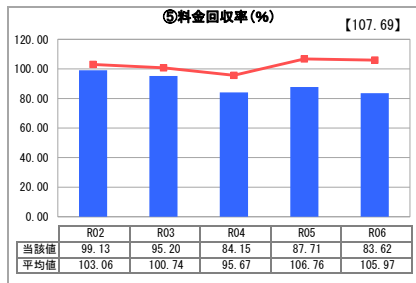
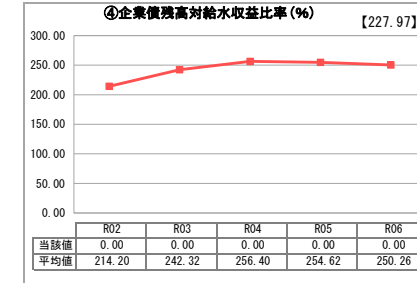
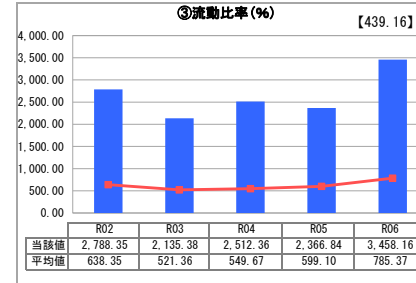
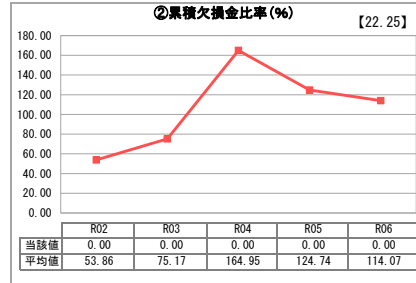
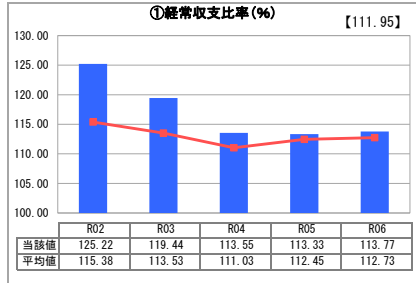
兵庫県 尼崎市
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	170,000	中規模	1	60,422
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	95.8	53	130,363	自治体職員	

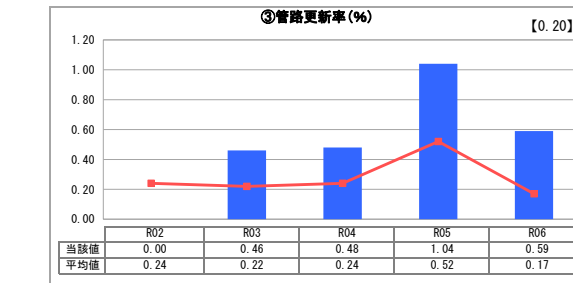
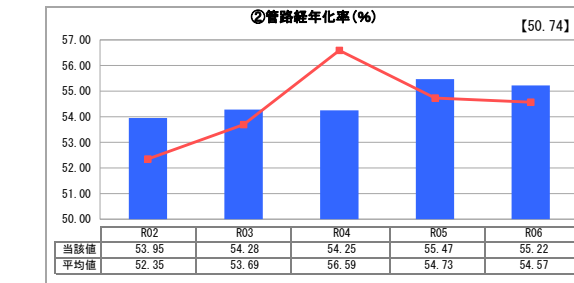
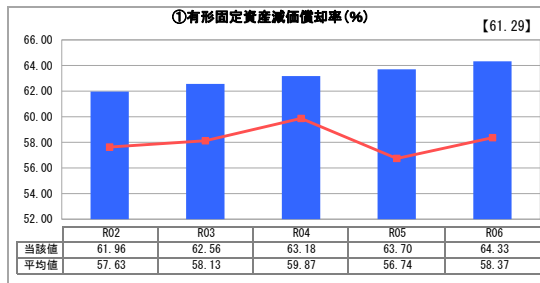
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
平均値よりも高く、指標が100%を上回っており、良好な状況である。

② 累積欠損金比率
0%を維持しており、欠損金は発生していない。

③ 流動比率
平均値よりも高く、100%を上回っていることから、財務的に安定した状況である。

④ 企業債務高対給水収益比率
平均値よりも低い水準であり、今後の事業費を見通したうえで借入れを行っておらず、適切な状態である。

⑤ 料金回収率
平均値よりも低い水準であり、給水原価の増により、前年度に比べて減少した。

⑥ 給水原価
平均値よりも高い水準であり、経常費用の増により、前年度に比べて増加した。

⑦ 施設利用率
平均値よりも低く、ユーザー企業の水需要の減少などにより、配水量と施設能力との乖離が生じており、施設能力が過大な状況である。

⑧ 契約率
平均値よりも高い水準であるが、今後の需要増の見込みは低く、契約率の減少が続くが見込まれる。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率・② 管路経年率
平均値よりも比較的高い水準となっている。高度経済成長期に整備した施設が更新時期を迎えていることが要因である。事業費の平準化を図るため、施設の実耐用年数を見極め、計画的かつ効率的な更新に取り組んでいる。

③ 管路更新率
各年度で更新率にばらつきはあるものの、平均値と比べ比較的高い水準であり、今後も計画的に経年化した管路の更新を行っていく。

全体総括

近年、ユーザー企業数は横ばいで推移しているものの、新たなユーザーが見込みにくい状況下で、物価高騰の影響等により、今後の経営環境はより一層厳しさを増すものと考えられる。

このような状況を踏まえて策定した「あますいびジョン2029」（2020～2029年）における事業運営指針に基づき、施設の耐震化・老朽化対策を着実に実施するとともに、経営環境の変化を踏まえ、安定的に事業運営できるよう、経営基盤の強化に取り組む。